

事業区分	文化芸術事業		育成・創造事業				
事業名	高校演劇ワークショップ事業 ①高校演劇ワークショップ ②高校生のための演劇スクール						
目的・内容	<p>【使命】文化人口の拡大とレベルアップ、多彩な人材育成とキャリア開発、子どもの文化芸術活動の推進 【事業の柱】学校との連携による子どもや青少年のための文化芸術体験活動の充実 人材育成のための機会の提供と各種研修制度の充実</p> <p>①高校演劇部新入部員に対し、主体的に演劇創造に携わるための基礎訓練を行い、意識啓発を図り、レベルアップに繋げる。また、演劇の実際の創造現場を体験することで、演劇表現の基盤であるコミュニケーション能力及び創造力を育成する。本事業を通じて、演劇人口の少ない本県において、次代を担う演劇活動者の育成と演劇人口の拡大を図る。併せて、顧問へ指導者の役割、指導方法について認識を促す。</p> <p>②鳥取県内の高校演劇部員及びその顧問を対象に、高校演劇の第一線で活躍している指導者の指導の下、実際の創作現場を体験しながら県内高校演劇のレベルアップ、人材の育成を図る。</p>						
開催日	<p>①高校演劇ワークショップ 平成24年4月28日(土)、29日(日)、30日(月・祝) 講師:西垣 耕造(俳優・東京演劇集団風所屬)</p> <p>②高校生のための演劇スクール 平成25年1月4日(金)～6日(日) 講師:畑澤聖悟(青森県立青森中央高校教諭・演劇部顧問)</p>						
会場	①高校演劇WS 中部地区/倉吉未来中心リハーサル室 東部地区/とりぎん文化会館リハーサル室 西部地区/米子市文化ホールイベントホール		②高校生のための演劇School とりぎん文化会館 リハーサル室、練習室、小ホール				
参加費	① 無料 ② 1,000円						
実施状況	参加者数	①高校演劇WS/目標 120名(各地区40名) 生徒104名(18校) 顧問12名(12校) ・中部地区 生徒24名(4校) 顧問4名 ・東部地区 生徒40名(7校) 顧問4名 ・西部地区 生徒40名(7校) 顧問4名	②高校生のための演劇School/目標(募集) 20名 生徒 11校 32名(顧問 12名参加) ※模擬公演来場者 105名				
事業費状況	予算額	収入	60,000円	支出	952,000円	収支比率	6.3%
	決算額	収入	32,000円	支出	772,783円	収支比率	4.1%
参加者アンケート(主なもの)	<p>回収率100%</p> <p>①ワークショップ ・いろいろな人とコミュニケーションがとれてよかった。 ・演劇は「反応があって行動が生まれる」という大切なことがわかった。今日のワークショップを今後の活動に活かしたい。</p> <p>②スクール ・すごく熱気あふれるこの企画の中で、自分では気づかなかったクセや演劇の役者の見え方など、知らなかったことをたくさん知りました。 ・他の学校の人と仲良くなれたし、無茶な挑戦を共有できて楽しかった。いつもの自分にはない役が出来て良かったし、自分はまだまだだと改めて知ることができた。 ・高校生の導き方を学ばせていただいたことが良かった。特に限られた時間の中で、演技や演出意図の理解について力を伸ばすにはどうすれば良いか、参考になることを多く学ばせていただいた。</p>						
1次評価(内部)	<p>【成果】</p> <p>①ワークショップ ・昨今まで東部地区顧問の参加率が低く、顧問会での説明強化、地区顧問代表との綿密な調整を行った結果全県からの参加があった。 ・昨年同様、生徒、顧問共に非常に評価の高い事業であった。顧問のスキルも向上に伴い、大会での発表作品の質も向上し全国大会への出場校も出てきている事から、継続事業としての成果が表れてきたと言える。</p> <p>②スクール ・昨年に続き2回目の実施であったが、参加者(生徒・顧問)の満足度も高く、非常に充実した内容となった。 ・昨年の評判等が演劇部顧問の間で広がり、結果、今年は開催地区(東部)を中心に県内全域から参加申込があり、想定定員を大きく上回る参加者数となった。 ・より実践的な内容とするために「模擬公演の上演(制作)」が柱となっているが、参加者は全員キャストとして舞台上がるという講師の意向があった。結果、2グループに分けて2グループの上演を行った。</p> <p>【課題等】 ・スクールにおいて、参加者全員に舞台上がってもらうことは出来たが、一方で講師に負担をかけてしまったこと、参加者への指導が分散してしまったことが課題として残った。</p>						
2次評価(財団評議員)	<p>【成果】 ・教員との連携、講師との事前調整など、事業がスムーズにまた有意義に進むように考えられている。 ・優れた指導者を招き、参加者のモチベーションも高め、充実したワークショップ、および作品創造につながった。</p> <p>【課題等】 ・継続的な事業展開が望まれる。また、開催毎に、事業の記録(内容、参加者の状況、参加者の感想、講師のコメント、事業担当者のコメント等)をまとめていく必要がある。 ・今後財団においてますます社会的意義が高まる事業であると思われる。それゆえ、継続的な取組が望まれる。</p>						
今後の対応、取組状況	<p>①ワークショップ ・コミュニケーションの習得を目的とした本事業と、1月に実施した専門的な技術を学ぶ演劇スクールとの住み分けができたことから、今後は演劇部に限らない学生向けのコミュニケーション習得事業とし、より多くの若年層の育成を図る事の検討を行う。 ・学校事業ではできない分野の若年層への育成は、社会的にも本財団が担うべき役割であり、改善を加えながら今後も継続すべき。</p> <p>②スクール ・事前の調整に時間を要するため、対応が後手に回らないよう、中心となる顧問や講師との入念なやり取りが必要である。 ・事業を通して高校演劇部顧問と財団との良い交流の場ともなった。今後、この繋がりを大事にしながら事業展開を模索していく。</p>						